

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2024 -105	2024/6/24	Russia Launches Second Gremyashchy-Class Corvette	【露艦建造状況】 ロシア、Gremyashchy級コルベット2番艦を進水	Naval News 2024/6/24	 ロシア海軍のGremyashchy級コルベット2番艦の建造経緯に関する記事です。本艦は当初西側の主機や補機を搭載する予定でしたが、ロシアのクリミア侵攻により提供企業が撤退したことで足回りの再設計が必要となったうえ、建造中の大火災により上部構造等が焼失し、建造に10年以上を要しています。つくづく不運な生い立ちのコルベットです。お祓いが必要でしょう。	佐々木司
2024 -106	2024/6/26	Japan Sets Course For New 13DDX Air Defence Destroyer	【日本次期護衛艦】 日本、新型防空護衛艦13DDXの針路を決定	Naval News 2024/6/26	 NavalNewsから、次期護衛艦の記事が掲載されました。5月に英国で行われたファンボローでの今吉装備官の講演記事になります。FFM24隻(当初22隻)体制確立とDDG建造工程の中で、次のDD建造時期が何時頃なのか、本記事により明らかになっています。今吉装備官は将来潜水艦についても講演しています。英雑誌に取り上げられて内容は国内で公表されるのでしょうか？(会議で使用された13DDX,将来潜水艦の講演資料(英語)は、インターネットでダウンロード可能)	山越博道
2024 -107	2024/7/1	'Hellscape' Swarms Could Be as Cost Effective Taiwan Defense, Says Report	【米無人船運用】 'Hellscape(地獄絵図)'の群れは費用対効果の高い台湾防衛になり得る、と報告書	USNI News 2024/7/1	 米国の研究機関による、台湾有事の際は陸海空において自律型ドローンの大幅な活用が必要であるという報告書です。特に、自律型「神風」ドローンへの投資を推奨しており、米インド太平洋軍司令官Sam Paparo海軍大将も、台湾の防衛は無人自律システムの導入にかかっていると語っているそうです。我が国においても島嶼防衛でドローンの大幅活用が必須なのは自明です。	佐々木司
2024 -108	2024/4/23	Sunak announces UK defence spending will rise to 2.5% of GDP by 2030	【英国防費方針】 「スナク首相、英国の国防費を2030年までにGDPの2.5%に引き上げると発表」	European Security & Defence 2024/4/23	 ストックホルム国際研究所(SIPRI)の2023年報告によると世界の軍事費上位10か国は、米、中、露、印、沙、英、独、宇、仏、日とあり、英国はすでにGDP比で2.3%を確保しています。この0.2%の引き上げの意義について述べた記事です。2030年には年間870億ポンド(約17兆4000億円)ということで、我が国も2027年度にGDP比2%を達成する中期目標を定めています(2024年度では1.6%に上昇と報道)、その差は明白です。軍事費を増大しないと国の安全保障を保てない以前に、「欧州最大の防衛大国としての地位を確保する」という主張について、まさに軍事費＝軍事力の大きさは国力を示す指標の一つと言えます。	工藤悟
2024 -109	2024/6/23	U.S. Army Conducts First Anti-Ship Ballistic Missile SINKEX Using PrSM	【米陸軍対艦弾道ミサイル】 米陸軍、PrSMを用いた初の対艦弾道ミサイルSINKEXを実施	Naval News Staff 2024/6/23	 海上を移動する目標にPrSMを命中させたとの記事です。(中国は対艦弾道弾を開発・装備したと言っていますが、未だ映像等は公開されていません。)このようなミサイルを南西諸島に配置し、UAV、USV等を、そのセンサーとして運用するという事を早期に検討・実現すべきと思います。	川原梅三郎
2024 -110	2024/2/2	A Houthi missile was just seconds from hitting a US warship. The Navy used its 'last line of defense'	【米艦の実個艦防空】 フーシ派のミサイルは、アメリカ軍艦に命中するわずか数秒前、海軍は「最後の防衛線」を行使した	CNN 2024/2/2	 本年2月の記事ですが、対艦ミサイルをファランクスで迎撃することのリスクについてリアルに解説されています。艦船への被害の有無は不明ですが、乗員の緊張感は相当と推測されます。	清水隆
2024 -111	2024/6/19	Opinion: Four lessons on sea denial from the Black and Red seas	【黒海・紅海の教訓】 オピニオン: 黒海、紅海における海洋拒否についての4つの教訓	DefenseNews 2024/6/19	 黒海と紅海での、洋上部隊と陸上部隊の戦いについて、教訓を解説している。日本にとっても南西諸島防衛について重要な教訓となるように思われる。艦船にとっては安価な迎撃兵器の開発が急務であろう。	清水隆
2024 -112	2024/6/29	Construction begins on new fleet of warships for Royal Canadian Navy	【加新型駆逐艦着工】 カナダ海軍の新艦隊用軍艦が着工	Defense News 2024/6/29	 カナダ海軍向けの新型駆逐艦の建造がようやく始まるようです。英海軍のType26を原型にしてLockheed Martin Canadaが設計を行い、カナダ国内のIrving造船所で建造を行うそうですが、1番艦の就役は2035年頃、最終15番艦の就役は2050年頃が予定されているそうで、随分とのんびりしたスケジュールです。最終番艦が就役するころは陳腐化しているのでは？	佐々木司
2024 -113	2024/6/19	Royal Navy considers purchase of vertical launch anti-submarine rocket	【英海軍VLA調達検討】 英海軍、垂直発射対潜水艦ロケットの調達を検討	NAVY LOOKOUT 2024/6/19	 本記事を読み初めてしりましたが、英海軍の新鋭Type 26、Type 31はMk41 VLSを搭載するものの、英海軍はVLAを保有していないため、発射できない模様です。このため、英海軍はRFIを出した訳ですが、我が長射程アスロックも候補になり得るのでしょうか？ペイロードは英海軍が運用中もしくは開発中の短魚雷を想定しているため、求められているのは、ロケット部分のみになります。しかも、Type 26、Type 31は、豪州、カナダ、ポーランド、インドネシアへの輸出が決定しているとみられるため、英海軍の動向次第では、非常に大きな母数になる可能性もあります。VLAは、新たな装備移転のアイテムになり得るかもしれません。	本山泰之

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2024 -114	2024/7/8	Accident at Bandar Abbas port: Iranian frigate Sahand loses balance during repairs.	【イラン修理艦事故】 バンドルアバス港での事故: イランフリゲート艦、Sahandが修理中にバランスを崩す	Naval News 2024/7/8	 NavyNewsからの記事。イランのフリゲートが、ホルムズ海峡を臨むバンドルアバスで修理中にバランスを崩し、転覆したという記事。言葉は「バランスを崩す」ですが、写真からは港内で「半没、転覆」しているようにみえます (Wikipediaでは沈没とありますが、エビデンスなく状況不明)。映像からは造船所内の煩雑な係留状況等、日本では考えられない修繕環境で軍艦を扱っている状況が伺えます。因みにモジ級フリゲートは4隻建造、現存3隻。もしWiki情報が正しければ、ホルムズ海峡を巡る作戦に大きな影響を及ぼすのではないのでしょうか。	山越博道
2024 -115	2024/5/3	Northrop's colossal Manta Ray underwater drone passes at-sea tests	【米UUV開発状況】 ノースロップの巨大なマンタ水中ドローンが海上試験に合格	Defense News 2024/5/3	 ノースロップ・グラマンとDARPAはマンタのような水中ドローンを開発中という記事です。ただ、具体的な性能、要目については全く記述されていません。大きさも「巨大」ということしか分かりませんが、ある程度のペイロードを搭載できるよう各種サイズを追求していくようです。今後の展開に注視していきます。	工藤悟
2024 -116	2024/7/8	Overhaul Delays for USS George Washington, USS John C. Stennis Partially Due to Unknown Steam Turbine Damage	【米空母修理状況】 USS George Washington, USS John C. Stennisが未知の蒸気タービンの損傷によってオーバーホール遅延	USNI News 2024/7/8	 オーバーホール中の米空母2隻で蒸気タービンに重大な損傷が発見され、オーバーホール期間を大幅に延長せざるを得なくなったようです。通常のスケジュールでも4年程度非可動期間になるのが、5年~6年に延長されるとなると、米海軍の艦船兵力構成や部隊運用にも大きく影響を及ぼす恐れがあります。西太平洋のパワーバランスに影響が出なければよいのですが...	佐々木司
2024 -117	2024/7/9	Taiwan to build 7 new submarines with Harpoon missiles in \$284 billion project.	【台湾潜水艦建造計画】 台湾が2840億台湾元を使い、後続のハーブーン搭載の新型潜水艦7隻の建造を計画	Naval News 2024/7/9	 台湾自由時報(電子版)記事を引用した英Naval News記事から。海鯤級を進水させた台湾海軍が、2840億元(台湾元: 日本円で約1兆4千億円)の予算を付け、7隻の追加建造を計画しているという内容です。訳文中、Naval News誌は7日記事としていますが、台湾自由時報(電子版)は6日となっています。ドローンや無人ピークルによるハリネズミ化等と共に、国土防衛のため計画的に艦船建造を計画する台湾の動きの中、海鯤の海上公試を横目でにらみながらの連続建造になるようです。	山越博道
2024 -118	2024/6/28	Submarine Procurement Widening the Aperture of Options	【加次期潜水艦運用法考察】 選択肢を広げる潜水艦調達	Naval Association of Canada Discussion Paper 2024/6/28	 次期カナダ潜水艦の調達の選択肢を、運用面の観点も含めて検討した論説です。潜水艦自体の要求に加え、母港から運用海域への進出時間のロスを問題視し、維持整備、補給、乗員給養のための自走式浮きドック支援艦をも構想しています。これは斬新な発想であり、同艦は国内建造可能とされていますが、機能満載の船でもあり、設計検討期間は相当要するものと想像しました。長い海岸線を有するカナダでは、運用海域への進出時間が乗員への大きな負担であることは、切実な問題なのでありましよう。	本山泰之
2024 -119	2024/7/10	Canada launching process to acquire up to 12 conventionally-powered submarines	【加政府次期潜水艦RFI発出告知】 カナダは最大12隻の通常動力型潜水艦の取得プロセスを開始する	Government of Canada 2024/7/10	 NATO首脳会議に合わせ発表された、カナダ政府の次期カナダ潜水艦の調達に関するニュースリリースです。これは、カナダの国防費がGDPの1.37%であり、NATOが求めるGDPの2%に達していないことの批判を、和らげる意図もありそうです。ただ、今秋にはRFIが発出されることが公にされました。このRFIでは、入札者の調達、建造、納期などの能力、カナダでの潜水艦維持整備能力確立の見通し、などが求められそうです。この調達を通じ、カナダは契約相手国とより緊密な関係を築き、潜水艦自体の提供だけでなく、カナダとの永続的な戦略的関係性構築を目指したいとしています。	本山泰之
2024 -120	2024/7/10	Ukraine's seaborne success an 'arbiter' of future naval warfare: NATO SACEUR	【無人船のNATO評価】ウクライナの海上での成功は、将来の海戦の「裁定者」: NATO事務総長	Breaking Defense 2024/7/10	 ウクライナ軍が海上ドローンを最大限活用してロシア黒海艦隊艦船に大きな被害を与えたことは米国のみならず欧州海軍に衝撃を与えています。今後は各国とも海上ドローンを活用した海戦のありかたに注目していくことでしょう。我が国も、「専守防衛」を国是とするなら、日本沿岸から大量の海上ドローンを駆使して侵略者を撃破する手立てを早急に確立する必要があります。	佐々木司
2024 -121	2024/7/22	HD Hyundai Launches Naval Ship Research Institute To Create The World's Leading Cradle Of Naval Technology	【現代HD艦船研究所発足】 現代HD、世界有数の海軍技術の発祥地を目指し海軍艦船研究所を発足	Naval News 2024/7/22	 韓国の現代HDが海軍艦船等の研究開発研究所を立ち上げました。これまでの組織を拡大したとのことですが、日本に同様の民間研究所があるとは聞いたことがありません。また、ハンファオーシャンもMSRA認証を取得して米国海軍造船市場への参入を加速しています。うかうかしていると日本は韓国の後塵を拝する事になります。大丈夫か、日本！	川原梅三郎

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2024 -122	2024/7/15	How SECNAV's claims about S. Korean, Japanese shipbuilders do and do not line up	【米海軍長官の日韓造船所への意図】 デルトロ長官は韓国と日本の造船所に何をさせて、何をさせないのか？	Breaking Defense 2024/7/15	  米海軍長官は、海洋力には米国だけでなく同盟国の建造能力も欠かせないと語っています。その為の活動の1つとして、韓国、日本の造船企業に米国内造船所へ資本投資を依頼しているようです。その成果の1つが韓国企業のハンファがフィラデルフィア造船所の買収に繋がっているようです。しかし、その施策については、米国内に様々な意見があるようです。特にアジア造船所が米国造船所より優れているという点について、米国内での意見は我々と共通する内容もあり、米国の造船所の環境も伺うことができ、興味深い内容です。	清水隆
2024 -123	2024/7/4	Will The U.S. Navy Build New Cruisers?	【米海軍巡洋艦議論】 米海軍は新型巡洋艦を建造するのか？	Naval News 2024/7/4	 米海軍のTiconderoga級巡洋艦が除籍した後、新たな巡洋艦を米海軍が建造するか否かについて、有識者の所見を紹介する記事です。Arleigh Burke級駆逐艦が、すでにかつての巡洋艦級の排水量を有すること、今後建造するFlight III DDG-51でTiconderoga級巡洋艦の機能は十分代替できるというのが識者の所見のようです。巡洋艦と駆逐艦の区別は、もはや不要でしょう。	佐々木司
2024 -124	2024/7/12	NavyX - introducing new technology to the Royal Navy fleet	【英海軍自律船開発動向】 NavyX - 英海軍艦隊への新技術の導入	NAVY LOOKOUT 2024/7/12	 増大する脅威、少子化及び募集難に加えて、人的被害の局限などを考えますと、艦船も省人化、無人化、自律化への対応は避けて通れない技術課題です。しかも、これは、米国など移民が多い国を除き、今日、ほとんどの先進国に共通の悩みと言えましょう。本編は、英海軍の船舶分野における無人・自律機能の開発取組みを紹介するものです。ここでは、試験艦運用は海軍ですが、産官学による開発態勢が敷かれています。量子技術など先進的な研究の成果は、将来、共有されるのでしょうか。継続して動向を注視して参ります。	本山泰之
2024 -125	2024/7/18	New Zealand Navy eyes a unique opportunity to revamp its fleet	【新海軍艦隊更新計画】ニュージーランド海軍、艦隊刷新のまたとない機会に注目	NAVALNEWS 2024/7/18	  ニュージーランド海軍の艦隊更新計画に関する情報です。同海軍は小規模ではありますが、今後10年間で9隻の艦船を更新する計画のようです。ただ、コロナ禍を経験して、海軍からの離職増加と募集難による人員不足、任務・脅威の多様化などから、単純な代替計画とは言えないようです。昨年、新たな国防戦略が発表され、艦隊刷新のためのRFIも発出されましたが、詳細な検討はこれからの模様です。	本山泰之